

素材研究 (海外)

ソロモン諸島



隆起珊瑚礁の平らな島も多く白砂のビーチが輝きます



熱帯雨林を縫うトレッキングも大きな魅力のひとつ



ホニアラ中心部にあるカタ・メンダナ・ホテル。日本人スタッフも常駐しています



ソロモン諸島伝統のカヌー。昔ながらの文化が今も大切にされています



下の右:ロプスター・カニなどの海の幸やパイナップル・マンゴー・パッションフルーツなどの果物も豊富



南太平洋の原風景が広がるソロモン諸島の海

原石のような観光素材の磨き上げを サステイナブル・ツーリズムの確立も

南太平洋に浮かぶソロモン諸島は、パプアニューギニアの東に位置する英連邦の構成国です。首都ホニアラのあるガダルカナル島をはじめ、太平洋戦争における激戦地としても知られ、戦後は日本から多くの慰霊団や遺骨収集団が訪れてきました。現在、ソロモン諸島を訪れる年間日本人旅行者数は1000人に届かず、観光目的の旅行者は数百人ととどまっていることから、日本からの旅行需要創出に向けて旅行業界への期待も高まっています。

日本市場へのアプローチを強化

ソロモン諸島は、パプアニューギニアのブーゲンビル島に隣接するショートランド島から南東へ約1700キロにわたり約1000もの島々が並び、南東側の国境は海を隔ててバヌアツ共和国と接しています。ソロモン諸島財務省統計局によると、2016年における同国への総旅行者数は2万3193人(日本人は552人)、そのうち、観光目的の旅行者数は7789人(日本人は269人)でした。

日本人旅行者数の拡大を目指すソロモン諸島は、2015年から3年連続で「ツーリズムEXPOジャパン(TEJ)」に出展しており、2017年に日本にある名誉領事

館内に政府観光局東京事務所を設置。同年8月には、観光情報を発信する日本語ホームページを開設したほか、太平洋諸島センターが「観光ガイドブック/ソロモン諸島」を10年ぶりに改訂するなど、日本市場に対するアプローチを強化しています。

未踏の地として大きな可能性

ソロモン諸島政府観光局東京事務所の小川和美チエアマンは、慰霊団や遺骨収集団との交流などを通じて、ソロモン諸島の人々は日本に親近感を持つており、1978年の独立後も日本がいち早く承認するなど、経済協力関係なども深いと説明。「手つかずの自然が残されたソロモン諸島にはユニークな文化も根付いており、『未踏のデステイネーション』として大きな可能性を秘めている」と強調する小川チエアマンは、「JATA会員の旅行会社の皆さんには商品造成を通じて、もっと多くの皆さんをソロモン諸島に送客していただきたい」と訴えています。

ソロモン諸島を訪れる旅行者の6割までがオーストラリア人で占められ、日本人旅行者は5%以下にとどまっていることから、小川チエアマンは「原石のような観光素材を磨き上げながら、付加価値の高い旅行商品開発とサステイナブル・ツーリズムの確立に資するデステイネーションとして日本市場に貢献していきたい」と意欲を示しています。